

研究ノート

モンポウ宛ブランカフォルト書簡(1918年～1921年6月)
解題と翻訳

椎名亮輔

同志社女子大学・学芸学部・音楽学科・教授

Correspondence between Frederic Mompou and Manuel
Blancafort (1918 – 1921) : Translation and commentary.

Ryosuke Shiina

Department of Music, Faculty of Liberal Arts, Doshisha Women's College of Liberal Arts, Professor

【解題】

両者共に現代カタルーニャを代表する作曲家、フラダリック・モンポウとマヌエル・ブランカフォルトは彼らが二十歳前後の頃に出会い、終生友情を持ち続けた親友であった。特にその交友初期、彼らが20代から30代にかけては様々な刺激を大いに与え合い、お互いの芸術的スタイルを育てて行ったのであった。彼らの芸術を理解するためには、その交流の証である往復書簡を手がかりにする必要がある。これからその往復書簡を紹介して行こうと思う。分量の関係から数度に分けて発表して行く。

フラダリック・モンポウ（スペイン語ではフェデリコ・モンポウ）Frederic Mompou (1893～1987) は、カタルーニャ州バルセロナで生まれた。リセウ音楽院でピアノを習い、1908年14歳で最初のリサイタルを行う。翌年バルセロナに楽旅に来たフォーレのコンサートを聴いたことが、作曲家を志すきっかけとなった。1911年グラナドスの紹介状を携えて、パリ音楽院院長のフォーレのもとを訪れた彼はしかし、院長面接に怖じ気づき、教室を後にし

てしまう。それでも、個人教授でフェルディナン・モット＝ラクローワ Ferdinand Motte-Lacroix にピアノを習うなどしながら、1913年までパリに留まる。その後のバルセロナ帰還後は彼の初期のピアノ曲が続々と創造された時期であり、また生涯の友、マヌエル・ブランカフォルト Manuel Blancafort (1897～1987) と出会った時期でもある。

マヌエル・ブランカフォルトも作曲家であるが、音楽は全くの独学である。彼はバルセロナ北郊にある温泉地ラ・ガリーガに生まれた。彼の父親はその地に湯治用ホテルを所有し、またかなりの楽才もあつたらしい。ホテル業以外に当時勃興しつつあったロール・ピアノの会社を、1905年に立ち上げたが、これはその後ほぼ息子のマヌエルに任せる形になって行った。しかし、その仕事こそ彼の音楽の実地授業となったのだった。ロールにパンチで穴を開けながら、音楽の実際を学んだのである。そして、共通の友人を介して出会ったモンポウからの大きな影響もあった。

彼らが出会ったのは1914年。彼らは他の若い芸術家仲間も交えてグループを作り、その集

合場所を〈僧院 la Ermita〉と名付け、そこで作品を見せ合い、芸術談義に花を咲かせる。〈僧院〉は実は、それ以前からモンポウを中心とした芸術家たちの集まる場所であり、その後も場所を変えて継続したようだ。モンポウの作品の出版譜に必ず掲載されるロゴ（これはモンポウの兄の画家ジョセップ・モンポウ Josep Mompou の手になる）は、この「僧院」をデザイン化したものだ。

1920年、モンポウの作品《魔法の歌 Cants màgics》が出版され、評判となる。彼はこの作品をピアノの師モット＝ラクロワに捧げ、これを持ってパリに再び発つ。同年ブランカフォルトはヴァイオリニストのエレナ・パリス Helena París と結婚、その後彼らの間には11人の子どもが生まれることになる。この大所帯を維持することが以後のブランカフォルトの重荷となってゆく。パリでのモンポウは作品が演奏され、批評界の重鎮エミール・ヴェイエルモーズ Émile Vuillermoz に賞賛され、カタルーニャ出身の先輩ピアニストのリカルド・ビニェス Ricardo Viñes の手引きもあって、貴族のサロンなどパリ社交界に出入りするようになって行った。

今回紹介するのは、現存する彼らの往復書簡のうち初期のものであり、特にこの期間にはモンポウからの書簡は残っていない。そのため、ここで読まれるのはモンポウ宛のブランカフォルトの書簡、1918年（モンポウ25歳、ブランカフォルト21歳）から1921年6月までのものである。出典は、ブランカフォルト財団 Fundació Manuel Blancafort 所蔵の資料であり、この資料を手に入れるためにブランカフォルト財団理事セルジ・ブランカフォルト Sergi Blancafort 氏（マヌエルの孫）に大変お世話になった。原資料の翻刻・解説にあたっては、カタルーニャ音楽院教授アドルフ・ブラ Adolf Pla 氏およびクリスティーナ・カバ Cristina Caba 女史の協力を得た。またこの研究が可能になったのは2013年度同志社女子大学在外研究助成金によるものである。ここに感謝したい。

以下の原文（正書法の統一される以前の旧カタルーニャ語）と翻訳は、原典にある数多い行分けを適宜整理していることをお断りしておく。[] は筆者による補足および注。

【書簡】

1

10-X-18

Amic

Vaig estar amb Ferrater y per fi avuy han arribat els fox-trots cóm no van ferho avants? Fà horas qu'els tinc y ja'l's he tocat 20 vegades cada un. Es colossal aviat podrém tenirlos tots. Un d'ells "Oh! Jonnhi" ja'l tinc fa temps, que vaig rébrele amb altres d'Améri

Per més que m'haguessin dit no hauría pogut figurarme aquest efecte es molt enginyós. Estic entussiasmat com a fabricant de rollos y de fox-trots.

També he rebut la teva carta. Penso venir dissabte però: temo que hagi de ser solsament per la tarda. Si vinc al matí vindré a veuret - si vinc [?] a la tarda no podré ja que aniré amb H.

Cuant tindré Kreissler? Si no vinc t'enviaré el recader, però, vindré. vindré.

Per lo curt y precipitat que t'escric coneixeràs que estic ocupadísim. Ara m'arribarán dias de més calma. Alius [?] bó: jo content.

Els de casa aviat cambiarán el nom de malalts p'el de convalents Crec que aqui la passa passa

Podria dirte moltes coses en broma però, ara en serio et dic que soc feliç i quant espero venir a Barcelona! tant temps! Tant temps! des d'aquell dia que vas acompanyarme a Arenys!

M'ha quedat molt present aquell moment, quant la barca arribaba a la platja que H y las germanas y jo vam juntarnos y vem agafarnos uns amb altres estrenyent els braços per quant la barca toqués a la sorra. Recordas?

Manuel

H. reya molt! Donaré [?] recorts als amics i las [????]

1918年10月10日

友よ、

ぼくはフェラテールといたんだ、そしてやっと今日になってフォックストロットが届いたよ。なぜもっと早くに届かなかったんだろう？それらを手に入れて数時間経つが、それぞれもう20回ほども弾いてみたよ。すごいよ。間もなく、すべてを自分たちのものにできるだろう。そのうちの一曲《おお、ジョニー》は、もうしばらく前から持っていた。他のと一緒にアメリカから送られて来たからね。

どんなことを言われても、この効果がどんなものか分からなかった。すごくうまくできている。ぼくは、ピアノロールとフォックストロットの制作者として、夢中さ。

君の手紙も受け取った。土曜日には行こうと思うんだが、しかしどうも夕方にしか行けないと思うんだ。もし朝のうちに行ければ、君にも会いに行く。もし夕方なら、Hと一緒に

ないな。

クライスラーはいつ手に入るんだい？もし行けなければ、メッセージを送るつもりだ。でもきつと行くよ。

この手紙の短さと急いでいる感じでぼくがどれだけ忙しくしてるか分かってくれ。

もう少ししたら、ちょっとは穏やかな日があるだろう。アリウスは元気で、ぼくは安心している。

家の者たち、間もなく病気から回復期に変わるだろう。

ここでの伝染はもう終わったと思う。

色々と噂話をすることもできるのだが、でも、正直言って、君にはぼくが幸福だと言おう。そしてバルセロナにいつ行けるだろうか！本当に！久しぶりだ！アレニスで君と一緒にいたあの日以来だよ！

あの時のことは、ぼくの中に厳然としてある。ボートが岸に到着した時、Hと姉妹たちとぼくが寄り添って、一緒に力を合わせて、腕を組みながら、ボートが砂地に乗り入れるようにした。覚えているかい？

マヌエル

Hはすごく笑ったっけ！友達と[??]たちによろしく。

2

28-X-18

Amic Frederic

T'escriu y dijous vindré. Com que no sé encare

l'horari de combinacions no't puc dir si serà al matí ó a la tarda que podrém anar a sentir el rollo de Kreissler, que't guarda algunes sorpreses.

T'enviaré p'el recader un paquet amb els ragtimes que tornarás al propietari amb gracies de part meva. Alla hi haurá el Kreissler, que prefereixo m'esperis a sentirlo dijous per veurer com t'es - capa el riurer - (però, que consti que riuràs de tantes emocions)

No m'has donat notícies de Modesta y las he esperat moltes vegades; el plet d'amistats deu estar en periode de plena activitat. O potser la mandra no't deixa un moment de repós.

Ara tinc mandra

Manuel

a dijous!

H. també de dol! ara que ja començaba treurer el sombrero vert!

1918年10月28日

わが友フラダリック、

君にこれを書いているが、木曜には行くよ。でもさまざまな用事の時間割がまだ分からないので、ぼくたちがクライスラーのロールを聴きに行けるのが、朝になるのか夕方になるのか分からないんだ。君にはきっと [ロールについて] 驚きが待っているよ。

宅急便でラグタイムの入った包みを送るつもりだ。持ち主には、ぼくからの感謝の気持ちを伝えて、返してくれ給え。あそこにはクライス

ラーがあるはずだが、ぼくは君がどのように笑いをこらえられなくなるか見るのに、木曜日まで聴くのを待ちたい(でも、念のため言っておくが、たくさんの感動で笑うんだよ)。

モDESTAについて知りたいのに、君はまだ何も教えてくれないね。友情会議は、活動の真っ最中という所だろうか。あるいは、もしかしたら怠け癖が君を少しの間も離さないということかな。

ああ、ぼくの方が怠けたいよ。

マヌエル

じゃあ、木曜日に!

Hも喪に服している! 今じゃもう、緑の帽子を被り始めているよ!

3

8/1/19

Amic. La primera cosa repetirte les gracies en nom de H. y meu per la invitació que'ns va deixar estar junts.

Ara, un nou favor:

Que si tens ó sabs qui tingui ó venguin a algun lloc la Fantasia cromática y fuga de Bach em convé tenirla si pot ser ahir mateix o avuy o demà - com més aviat.

Si es la original millor, si es arreglo també serviria, (orgue ó piano)

Dona fé de vida, contestant el sí ó el no a l'hora.

Una altre cosa! Saludarás en les González de

part meva

4

Fins aviat.

20 - II - 19

Fesme el favor de compositar

Amic

Jo. Manuel

Estranyo molt no veuret ni saber rès de tú y penso si estás malalt. T'he esperat ahir y avuy.

1919年1月8日

No sé si ja ets ric.

友よ、まず第一にHとぼくの名において、ぼくたちが一緒にいられるように招待するという厚意を君が繰り返してくれること。

Jo he fet com els crangs. Torno a tenir febra y en lloc d'anar en devant vaig en radera.

そして、また新しい頼みなのだが。

De totes maneres he fet el plan de posarme bé aviat: tinc pensat passar tot demà sense febre.

もし君が、誰かどこかでバッハの半音階的幻想曲とフーガを持っているあるいは売っている人を知っている、あるいは君が持っているなら、それをぼくのためにできれば取っておいて欲しい、昨日または今日あるいは明日とにかく一刻も早く。

Crec que demà torna el meu pare: sí's tractés d'un altre que no fos tú, pensaría que no has tornat quedant ofès per el paper que't va fer el meu pare.

もしそれがオリジナルなら、なおいいけれど、アレンジ版でも、同じように役に立つ（オルガンあるいはピアノ）。

que hi farem!

イエスカノーか同時に答えて生きている証拠を見せてくれ。

Si ets viu digas alguna cosa

もう一つ！ぼくからゴンサレス姉妹によろしく伝えてくれ。

Manuel

1919年2月20日

それではまた。

友よ、

ぼくに何か作曲してくれ。

君を見ないし、君から何の便りもない。これはとても変だ、思うに君は病気なのかな。昨日も今日も君を待ってたんだ。

マヌエルより

君がもう金持ちかどうかは知らない。

ぼくはカニのようだ。また熱くなってしまった。前へ進む代わりに後ろへ行っちゃったってわけ。

いずれにせよ、すぐに自分をうまく律しようと決心した。朝から一日中、熱くならないように過ごそうと考えているんだ。

明日には父が帰ってくるだろう。君がいないということとは別のことが問題になれば、父が君に送った手紙によって君が怒って、もう再び来ないのだと思うだろう。

父をどうしたらいいだろう！

もし生きていたら、何か言ってくれ。

マヌエル

5

2 - VI - 19

Amic Frederic

T'envio la música d'en Ferrater demanant que't cuidis de donarli aquestes altres peces son per si ell ó tú mateix voléu entretenirhi una estona.

A més, he posat aquestes meves, que son les que vaig treynt en net d'aquella complicada colecció de apunts. Ja sé que no t'envió rés interessant.

Ara, l'objete principal d'aquesta carta es: que habent estat H a casa dels Planella y habent parlat de nosaltres, hem pensat ella y yo en fer una tarda de música allá, cosa que (si pot ser) hauries d'agenciar [?] tú, sense donar a coneixer massa que ella y jo som els protagonistes.

Espero que no deixarás retrassar aquesta diligencia, sense comprometer (de moment) la fecha.

Dijous crec que baixo però no sé si podré anar a casa teva.

Vaig serhi

Manuel

1919年6月2日

わが友フラダリック

君にフェラテルの曲を送る。どうか彼にこれらの別の曲を渡してくれ給え。これは君や彼自身がしばらくの間、楽しみたければ、ということだ。

その上、これらほくの曲も入れた。込み入ったスケッチの束からきれいに清書しつつあるものだ。でも、もちろん君には何も興味のあるものでないことは知っているさ。

さて、この手紙の主要目的はと言えば……プラネッリャ邸にHがいて、ほくたちは話をして、彼女とほくは、そこで午後のひとときを音楽をして過ごそうと考えたんだ、つまりそれは（もしかしたら）君がやってくれるかも知れないことで、それも、彼女とほくが関係者だ、ということを知らせ過ぎないようにして、だ。

日程をだめにする（今の所）ことがないように、この手続きを君が遅らせないことを期待するよ。

木曜日には、市内に行くつもり、でも君の家に行けるかどうか分からない。

そこにいたんだ。

マヌエル

6

5 - VI - 19

Amic Frederic

T'envio aquestes músiques perque les juntis a les altres meves que guardas. Et recomano el "Rossinyol". No't descuidis de escriurem fent comentaris.

La Treseta va dirme lo del "Kreissler" He començat a copiarlo però hi tinc molta feyna ja que es entrentigut l'haber de treure ho del rotillo

Demano que m'enviis, a no tardar, tot lo meu de escrits

H. a Arenys Xnan [?] a La Garriga esperante. Cuant podrias venir? En tinc ganas

Recorts

Manuel

1919年6月5日

わが友、フラダリック

これらの曲を送る。君が持っているほかの他の曲と一緒にしておいてくれ。「夜鳴き鶯」はおすすめだよ。感想を書いて送ってくれるのを忘れないように。

トレセタがほくに「クライスラー」のあの「ロール」のことを話した。それをコピーし始めたんだが、けっこう大変な仕事だ。でもそれをロールから取り出すのは楽しいけれどね。

ほくが書いたものを全部、できるだけ早く、送って欲しいんだが。

H はアレニスにいる。クナンは、ラ・ガリーガにいて、君を待っているよ。何時こっちに来れるかい？ 会いたいよ。

敬具

マヌエル

7

20 - VI - 19

Amic

Una segona carta insistint. hás de trovar la invitació pots deixarla perque jo la reculli diumenge tarda a casa teva (al pis ó a la porteria) Penso arribar a B. a 2/4 de 7. a la nit ens veurém al Palau y espero poguer venir l'endemá a ferte llevar.

Estic fent colecció de cançons populars armonitzades: per ara soc a la quarta.

Tinc ganas de veuret.

Manuel

1919年6月20日

友よ、

念のため第2の手紙だ。招待状を見つける必要がある。それを、ほくが日曜夕方に君の家に行った時に受け取れるように用意して欲しい(君の家か、管理人の所に)。B [バルセロナ]には6時半に着くつもり。夜には、ほくらはパラウ [デ・ラ・ムシカ] で会えるだろう。そして翌日には君を起こしに来れると思うよ。

民謡の和声付けコレクションをしている最中だ。今の所、第4集まで。

君に会いたい。

マヌエル

8

30 - VII - 19

Amic

Sol llicitém una teva visita, que començant el dia que vulguis pot allargarse fins el dia que volguém

Dies 3, 4 i 5 "Festa major" Els demás dies - - com tots. Programa: s'improvisará Entre altres coses: música - bosc - passeig - etc -

Contesta afirmativament i millor personalment El dia 4 presentat (si es que no pot ser el 3 ó el 2).

Manuel
Helena

1919年7月30日

友よ、

君をうちに招待したい。好きな時に来て貰っていい。そして心行くまで滞在して貰っていいんだ。

3、4、5日は「^{フェスタ・マジョール}村祭り」だ。他の日はいつも通り。プログラム：その場で決めよう。その他：音楽、林、散歩、などなど。

肯定形で返事をくれたまえ。そして、より良いのは、個人的に。4日は、来てくれよ（もしだめなら、3日あるいは2日）。

マヌエル
エレナ

9

Dijous 19 Sept 19

Amic

No puc escriuret

Sempre t'espero i ara també

Infinit

Manuel

El calaix més petit de L'Ermita conté l'Infinit!

1919年9月19日木曜日

友よ、

君に手紙を書くことができない。

ずっと君を待っている、そして今も、だ。

無限に

マヌエル

〈^{エルミタ}僧院〉のごく小さな引き出しにも〈無限〉が入っているのさ！

10

26 - X - 19

Crec qu'arribaré d'Arenys a a/4 de 7 Tal com está pactat. Si no - arribaré mes tart. Dilluns

a Montserrat i dimecres a B. on ens veurém de nou T'envio "Cançó sota les branques" Avui he sentit i vist tocar Juli Pons a casa Estrada. Tot el temps he pensat en el teu llibre d'interpretació que li fá molta falta - però que no lograria ferli servei, porque el crec de la categoria dels que no

Galeria "d'artistes"

[Dibujo]

No s'assembla a tú- en res -

Mblancafort

Recorts a C (ahir vingué Duvoard [?] i renegá [?] de satisfacció al sentir el seu (i meu) vals

1919年10月26日

アレニスには、約束通り6時ちょっとには行けると思う。でなければ、もう少し遅くなる。月曜にはモンセラットだ。そして水曜には、B [バルセロナ] で、再び会おう。君に「船首の下の歌」を送る。今日ぼくは、エストラーダ家でジュリ・ポンス [1] が演奏するのを聴き、見た。その間ずっと、君の演奏についての本のことを考えていた。これは彼にはぜひ必要だ。でも結局彼のためにはならないだろう、なぜなら役に立たない本のカテゴリーに彼は入れるだろうから。

「芸術家」ギャラリー。

[図]

君には全然似てないよ。

Mブランカフォルト

Cによろしく。(昨日、ドゥヴォアルド [?] が来たが、彼は彼の(そしてぼくの)ワルツを聴いたときの満足感を否定 [?] していた。)

註

[1] ジュリ・ポンス Juli Pons i del Castillo (1896 ~1974)。カタルーニャのピアニスト・作曲家。グラナドスに師事。

11

6 - XI - 19

Amic.

Si dissabte a 2/4 de 7 vas a l'estació es fácil que'm trovis i que't porti el 1^{er} tomo de la Biblioteca "Imprempta amiga"

Es fácil que l'endemá a les 8 m'embarqui cap a Arenys per passarhi el dia - - i la nit - -

Es fácil que dilluns matí arrivi altre vegada a Barcelona i la teva son decidirá si podrém estar junts o no. A les 2 empendré el camí de La Garriga

Aquets son els meus projectes als que espero em ferás honor de pendr'hi part en la proporció més gran (i per lo tant mes favorable per mi) que tinguis gust.

- Vol res més?

- No senyor

- Passiho bé

- Passiho bé

Mblancafort

Et felicito!

Recorts a C.

1919年11月6日

友よ、

もし土曜日6時半に駅に来れるなら、ぼくと
会って、「友達印刷」文庫の第1巻を君に渡す
のは簡単だ。

翌日8時にアレニスまで行ってそこに昼間中
ずっと……夜も……過ごすのは簡単だ。

月曜日の朝、バルセロナに再び着いて、君の夢
がぼくたちが一緒にいられるのかそうでないの
かを決めるのは簡単だ。2時にぼくはラ・ガ
リーガに帰る。

これらがぼくの計画だ。そして、君がそれを喜
んでする以上に（それゆえ、ぼくにより好意的
に）大規模にそれに参加するという名誉を与え
てくれることを期待するよ。

「他に何か？」

「いいえ、セニョール」

「ではまた」

「ではまた」

M ブランカフォルト

おめでとう！

Cによろしく。

12

11 - XI - 19

Amic

Rebi la teva

Suposo que rebrá, si no ha rebut, la revista.

Mercés!

No sé amb quines paraules va escriurer
Angels i tampoc m'atreveixo a preguntar amb
quines paraules escriurás tú

MB

[Dibujó]

1919年11月11日

友よ、

君の手紙を受け取った。

雑誌は、もし未だだったら、そろそろ届くだろ
う。

ありがとう！

アンジェルスがどんな言葉で書いたのか知らな
いし、君がどんな言葉で書くのかを尋ねる勇気
も持っていないよ。

MB

[図]

13

14 - XI - 19

Amic

T'envio algunes de les meves últimes obres
(amb minúscula) per si vols pendret la
molestia de ferles passar p'els teus deu llargs
dits (Digas ben depressa aixó últim!)

Tinc "cants màgics" ficats al cap.

H. va dirme fa poc que no ha rebut la revista
de "Modes"

Esperant veurens, desitjo no esperis a veurem per dirme quelcom de lo que fa al cás.

Mblancafort

Cuant toquis per mi, fixat en les feches dels motius perque no ho trovis desplaçat

手紙 13

1919年 11月 14日

友よ、

君にぼくの最新作（小文字だよ）のいくつかを送る。もしかしたら君の長い指をそこに走らせるという骨折りをしてくれるかもしれないからね（最後は素早く読んで！）。

ぼくの頭の中は「魔法の歌」でいっぱいだ。

Hはちょっと前に「モード」雑誌は受け取ってないと言っていたよ。

君に会えるのを待ちながら。問題となっているこれらについて何かを言うためにぼくに会うのを待ってないことを祈る。

Mブランカフォルト

ぼくに演奏してくれる時、ばらばらにならないようにモチーフの日付に気をつけてくれたまえ。

14

20 - XI - 19

Amic

Molt he pensat en la nostra conversa Feia molt temps qu'erem amics -, som molt amics

ja - -

Doncs estic impresionat p'el teu decaïment moral i material i com a amic voldria poguete ajudar.

No dubtis de decidir seriament a regenerarte, lo que estic segur lograrás. Pósat en mans d'una intel·ligencia observadora - i no't preocu- pis massa d'observarte tú mateix. Prén repós en l'esperit i reglamenta la vida corporal

Si jo pogués et donaría la mitat dels meus tresors - que son: reglamentació de la activitat - constancia en les reglamentacions -, i repós continuat - quietut constant -

Per tú jo soc un home vertiginós -, segons sols dir: "el del telegrama"

Però, si reflexionas, veurás que soc vertiginós durant el temps que'm treu del meu estat de calma - i aquesta precipitació no es més que el desitg de tornar aviat al meu centre - - al centre d'una espera de llum i de silenci -: puc dirte que aixis visc

Si pogués et donaria la mitat de lo que posseeixo. Però tú mateix pots proposarte i lograr adquirir una calma que't regeneri

T'escric perque he pensat, com ha de ser, molt en aixó i en les converses d'ahir.

L'amic

Manuel

Espero que m'escriguis.

1919年11月20日

友よ、

ぼくたちの対話について、たくさん考えた。ぼくたちが友達になって久しい。我々はとても友情で結ばれている……。

しかし、ぼくは君の心身の衰えに気付いた。そして友人として君の助けになりたいのだ。

真剣に再起する決心を躊躇わないでくれ。もちろん君がそうしてくれることに疑いはないが。観察者の知性に身を委ねるんだ。そして自分自身で自己観察をし過ぎないように気をつけることだ。精神の休養と身体生活を規律よくすること。

できたら、君にぼくの宝物の半分を上げたいくらいだ。それは、活動の規律化、その規律化の恒常性、そして継続する休養、恒常的静謐だ。

君にとってぼくは、敏捷な人間だ。君がよくこう言うように、「電報のような人物」と。

しかし、ちょっと考えて貰えたら、ぼくが敏捷なのは静寂状態から離れている時だということが分かるだろう。そしてこの敏捷さはぼくの中心に早く戻りたいということだけなのだ。光と沈黙の期待の中心だ。このようにぼくは生きているのだと言えよう。

できればこのぼくの持ち物の半分を君にあげたい。

でも君自身、それができるはずだし、再起のための静寂を獲得することができるはずだ。

こういうことについて、そして昨日の対話について、そうあるべきようにたくさん考えたので、この手紙を書いた。

君の友より、

マヌエル

返事を待っている。

15

Dijous 14 - 1 - 20

Amic de Barcelona:

No vagis diumenge a veurer l'amic de La Garriga

Ell a Sta. Cristina Vols venir'hi? no dic que em donarás alegria, sino que ens la donarás. He sigut pregat de fer-te venir - una - dos - tres - etc. vegades.

Un dia la culpa tú -, altre dia jo -, altre elles -. Diumenge qui la tindrà?

Essent aixó projectes i no encare realitats, t'invito a projectar venir amb nosaltres (si hi aném). Dissabte proposo baixar a les 2. A les 4 traslladarme a Arenys. L'endemà 9^{1/2} sortir per Sta. Cristina. Si tens la amable pensada de venir podrás comunicármela dissabte a les tres de la tarda.

Diumenge t'esperava a la lluminosa Garriga

L'altre mitat de la teva grippe l'he tingut jo. Pere una sencera per ell sol -. Comença a menjar gallina: porta barba i bigoti (Recorts al teu germá.)

H. i jo hem seguit el cas Ors-Puig. Sabiam que saltaria de la Mancomunitat. No ho ha fet per un punt d'honor, sino porque algú s'ho ha proposat i ho ha lograt. Ha tingut cinc dits

de má femenina estampats a la cara. En Puig no hi juga cap paper.

Ara més que mai hauria convingut rectificar l'opinió a Quintas.

Et dec un duro

Apa!

Manuel

1920年1月14日月曜

バルセロナの友よ：

日曜にはラ・ガリーガの友を訪ってはくれるな。

サンタ・クリスティーナの彼。来たいのかい？
ぼくを喜ばせるとは言っていない、ぼくたちを喜ばせるんだ。彼らはぼくに君を、1、2、3回以上……来させるように頼んだのさ。

ある日は君のせい、他の日はぼくのせい、そしてまた他の日は彼女たちだ。日曜日は誰のせいになるだろう？

この計画について、まだ実現していないから、ぼくたちと一緒に来て計画を練るのに君を招待したい（もしうまく行けばね）。土曜の2時に[バルセロナまで]降りて行くことを提案する。4時にぼくはアレニスに移動する。翌日8時半にサンタ・クリスティーナまで行く。もし君に来て貰えるなら、土曜の3時にその旨ぼくに伝えてくれるか。

日曜に光り輝くガリーガで君を待っていたんだよ。

君の風邪のもう半分をぼくが貰ってしまった。ペレは一つ完全なのを彼だけで貰った。彼は鶏を食べ始めた。そして口髭と顎髭を剃ってしまった。（お兄さんによろしく。）

Hとぼくは、オルス＝プッチの件にかかりきりだ。ラ・マンコムニカットから飛び出るのは知っていたよ。面子の問題でそれをしたのではないんだ。そうではなくて誰かが彼にそれを提案して彼はただそれに従ったというわけ。彼は女性の手で平手打ちを食らったんだ。プッチは、その件では何の役割も果たしていない。

今や、何時にも増して、キンタスの意見を正さなければいけないと思うね。

君には借りができた。

ああ！

マヌエル

16

5 - II - 20

Nova grip?

No has rebut?

I dilluns: barmes?⁽¹⁾

Aquesta setmana és com si ja hagués passat.
L'altra tindrà un dia per veure'ns.

A en oliu [?] ?

barmes?⁽²⁾

Jo, el de sempre. Telegrames Telèfons
Fàbrica (molt) Mal hivern (poc) Arenys (cada
15 dies)

Em preocupa: "La capseta dels secrets"
(nouvelles impressions)

Hem de parlar. Manuel

Records.

⁽¹⁾ J [?].A.

⁽²⁾ Música

1920年2月5日

また風邪かい？

まだ受け取ってない？

そして月曜はバルメス？ (1)

今週はもう終わってしまったようだ。来週には、
ほくたちが会える日があるだろうね。

そしてオリアウ [?] は？

バルメスは？ (2)

ほくはいつも通りだ。電報 電話 工場 (たくさん)
冬の病気 (少し) アレニス (2週間毎)

今の関心事は：「秘密の箱」(《新しい印象》) [1]

ほくたちは話す必要がある。マヌエル

敬具

(1) J [?] · A ·

(2) 音楽

註

[1] この作品はブランカフォルト財団の作品表には
載っていない。(以後も「印象」という作品が話題
になるが、このタイトルの作品は作品表にはな
い。)

Amic,

T'envio el recull d'impressions. (1) "La
capseta dels secrets" perquè em facis el servei
de tocar-los i dir-me el què et sembli.

Dimecres, matí o tarda, estaré probablement
amb tu i és molt fàcil que m'acompanyis a fer
una petita compra abans de l'hora d'anar a
M.Z.A.

Si tinguessis 4 duros disponibles t'invitaria
una vegada més.

Apa! i res més.

Manuel

[DIBUJO]

[AL MARGEN:]

(1) Cants íntims 1^{er} quadern

sigue

M'adono que tinc ganes de què vinguis a La
Garriga.

Acabo de compondre una Impressió.

"Remor al bosc"

1920年3月22日

友よ、

印象を集めたものを送る。(1)「秘密の箱」に
ついては、これを演奏して、ほくにどう思うか
を言って貰えないかな。

水曜日、朝か夕方に、多分君と一緒にいられる

と思う。そしてM・Z・Aに行く時間までちょっとした買い物に付き合っただけで嬉しい。

もし4ドゥーロ君が自由になるならもう一度おごってあげるのだが。

ああ！こんなところかな。

マヌエル

[図]

[余白に:]

(1) 親密な歌、第1集 [1]

続く

君にラ・ガリーガに来て欲しいということに気付いた。

もう一曲印象を作曲したところだ。

「森の思い出」

註

[1] 《親密な歌》第1集は1918年から20年にかけて作曲され、1922年にパリのサラベール社から出版されたピアノ曲集。全8曲から成る。

18

27 - IIII - 20 vespre

a París

Amic,

Vaig rebre la teva carta que molt esperava després de tants dies. Encara no saps que la vigília de la teva sortida va morir el meu cosí Ramon, germà del de la moto i que això va

impedir-me anar-te a acomiadar.

He esperat molt i amb certesa de què diries “un èxit!” Si no l’haguessis tingut, tal vegada t’hauria contestat “tant se me’n dona!” que voldria dir “ja trobaràs un altre dia algú més sincer o que hi entengui més!”. Doncs m’alegro que ja sigui ara que els hem trobat!

No sóc jo qui puc escriure’t i explicar sinó que espero que m’escriguis i m’expliquis tu.

La meva lletra tremolosa és deguda a què arribo de Sant Feliu! on hem anat en la nova moto-raid [?] del meu cosí (12 H.P.). *Estupèndit...* no m’expliquis allò de París perquè no hagi de patir, però pateix tu, perquè ara vinc de Sant Feliu i hi ha lluna i tota la carretera és sota un tàlem de flors d’acàcia.

Aquesta setmana vindrà el guitarra Segovia a veure la fàbrica: crec també, el nostre Morera ⁽¹⁾. L’altra setmana van ésser aquí, acompanyats pel colossal Tió, alguns individus, entre ells el nostre Pahissa a qui vaig visitar ahir, passant tres hores a casa seva. Ell és molt simpàtic: la seva (?) música (que és de tothom) em fa molta llàstima. Després vaig tocar la meva “Capseta dels secrets” i algunes “Cançons” que van agradar-li bon tros més que les seves “Tugues [?]” a mi.

A veure si aviat podrem dir el “nostre Cocteau” i el “nostre Satie”! Sincerament et dic que ho dubto, i que no em sorprendrà gens si has de dir-me “noi! molt contents, molt bé, els agrada molt, però... encara no són dels nostres”.

⁽¹⁾ Ai! quina cançó!

Primer et deia que no dubtava del teu èxit: ara sembla que parlo dubtant-ne. Sempre he cregut segur que interessaries molt a molts, però això últim ja ho deia pensant en com de difícil és trobar algú a qui les teves músiques el commouguin de la manera que elles han de commou-re: a veure!

Notícies

Carmen no és aquí. No vaig a Arenys i em quedo a B [?], i afores. Vaig composant noves impressions.

Escriu.

L'amic, Manuel

Records al pintor Mompou.

Records i olors de l'Ermita!

(He sabut que Modesta està malament i és a B.)

1920年4月27日夜パリに

友よ、

君の手紙を受け取った。何日も前からあれほど待ちこがれたものだ。まだ君は、君の出発の前日にぼくの従兄弟のラモン、自動車の従兄弟の兄弟のラモンが死んだことを知らないのだ。そのためにぼくは君にさよならを言いに行けなかったんだ。

ぼくは大分待ったよ、君が「大成功！」と言ってくれることを確信しながらね。もしそうしなかったとしたら、その場合はぼくはこう答えただろう、「同じことさ！」ということはつまり「別の日に君はもっと誠実でもっと物の分かった人

間に出会うだろうよ！」ということだ。まあしかし、ぼくたちが見付けたものが今だったということを楽しく思うよ！

ぼくは君に手紙を書いたり説明したりできるような人間じゃないんだ。むしろぼくの方が君に手紙で説明してくれるのを待っているんだ。

ぼくの震える手紙はそれがサン・フェリウから出されたことに原因があるんだ！そこにぼくたちは従兄弟の新しい自動車レース [?]で行ったんだ (12H・P・)。まったく素晴しかった……。パリのあれこれが苦しむべきだなんて説明はよしてくれ、君は苦しんでいるかもしれないが、なぜってぼくはサン・フェリウから帰って来たところで、ここには月があり、全ての道がアカシアの花びらに覆い尽くされているのだから。

今週にはギタリストのセゴビアが工場を見に来る。ぼくらのモレーラ (1) [1] も来ると思う。次の週にはここに留まり、巨漢のおじさんや何人かの人物をエスコートするのだが、その中にはぼくらのパイッサ [2] もいる。彼には昨日会った、彼の家で3時間も過ごしたよ。彼はとても気持ちのいい人物だ。彼の(?)音楽は(それは皆のものでもあるが)非常に残念なものだ。ぼくの「秘密の箱」といくつかの「歌」を弾いた後、彼はそれらをけっこう気に入ったけれど、ぼくはそれほど彼の「トゥーガス」を気に入らなかった。

間もなく「ぼくらのコクトー」とか「ぼくらのサティー」とか言えるようになるだろうか！正直言って、ぼくは怪しいと思う。そして君がぼくに「ほら！彼らは満足だ、オッキー、彼らは気に入った、でも……まだ彼らは「ぼくらの……」ではない」と言わなければならぬとしても最終的にはぼくは驚かないね。

(1) ああ、何という歌だろう！

まずぼくは君の成功を疑わないと言っていた。今は疑いのある者について話しているような気がする。いつも君は多くの人に非常に興味を起こさせると

確信して来た。しかし、この最後の人間は、君の音楽が感動させるべきやり方で感動させられる、そういう人を見出すことは難しいというように考えていると言っているんだ。まあ、見てみよう！

注

カルメンはここにはいない。ぼくはアレニスには行かずに B[バルセロナ]とその近郊に留まっている。新しい印象を作曲中だ。

手紙をくれたまえ。

君の友、マヌエル

画家モンポウ [3] によろしく。

〈^{エルミタ}僧院〉のにおいにもよろしく！

(モDESTAは具合が悪くて B [バルセロナ] に居ると聞いた。)

註

[1] アンリック・モレーラ Enric Morera i Viura (1865~1942)。バルセロナに生まれ、終生同地で活躍した作曲家。数多くのオペラ、オーケストラ、合唱作品を作曲したが、中でも多くのサルダーナを作曲したことで知られる。作風はロマン主義的だが、特に国民主義的傾向が強く、彼の作曲したサルダーナを含むサルスエラ(スペイン風オペレッタ)《ラ・サンタ・エスピーナ》はカタルーニャ主義のシンボルとなった。

[2] ジャイマ・バイッサ Jaime Pahissa i Jo (1880~1969)。バルセロナ生まれの作曲家、批評家。モレーラの弟子。オペラや交響曲、オーケストラ曲などを作曲。リセウ音楽院教授などを歴任した

が、1937年にアルゼンチンに亡命。

[3] ジョセップ・モンポウ Josep Mompou i Dencausse (1888~1968)。フラダリックの兄で画家。世紀初頭のバルセロナで盛んだった「ノウセンティスモ」(1900年主義)から出発し、フォーヴィスムなど様々な前衛様式を総合した。

19

8 - V - 20 vespre dissabte a Paris

Amic

Molts dies sense escriuret. Aixó es bona senyal si es degut a tenir els minuts i el pensament ben ocupats. Seria senyal de Ganduleria cas contrari.

Fins avants d'ahir no he vist la teva C. Ara ja deus saberho per ella mateixa, i també ja't deu haver explicat la seva instal·lació a La Garriga. Dijous, doncs, va telefonarme una veueta "que hi es en Manuel?". (Qui serà!) I va esser la C. A les 6 vem veurens al passeig caminant junts: sentantnos i llegint les teves cartes. Vaig acompanyarla fins al seu convent. Un dia de la semana vinent pujarà a l'Ermita - - però - acompanyada, perque - - ja ho sabs! - La Treseta serà la companyia, doncs ja hem combinat la cosa.

Vaig rebre la segona carta. La meva devia arribarte una hora ó altre.

Ja qu'ets a Paris et feré algun encàrreg. Aquets son: no tornar sense aquell llibre d'en Cocteau ó enviármel si't vingués bé. Altre: "Serres chaudes" de Maeterlinck que no sé si'l trovaria a Barcelona. Altre i últim: enterarte i comprar si existeix la continuació d'una obra d'Hortense Parent ont hi ha la

vida i miracles de tots els que amb més o menys justícia s'els diu mestres d'el piano. Jo tinc un tomo encuadernat (tal vegada son 2 llibres encuadernats junts) que comprén des de els primitius fins als moderns recorts. (César Frank, Chausson, etc.) Crec que aquesta senyora es proposava publicar el d'els artistes vivents (alguns ara ja morts). Grieg, Albéniz, i etc - Ja no'ls agafa el 1^{er} L'encàrreg consisteix doncs en enterarte de si s'ha publicat i comprarlo si tens diners (crec que si anant amb el teu germà). Tot aixó ho liquidarém escrupulosament. Valgui lo que valgui! A aquets encàrregs dedicali el temps que't sobri, si t'en sobra. No exigeixo esforços.

Amb C. vem parlar de las González - - "a veurer! a veurer! Si ara elles van allà!" (Paraules de C.) També em va dir que't deixa triar entre les G. i ella: també vem nomanar la Rosita.

Espero cada día la nova de l'audió de les teves obres. Per qué tardar tant? - No entenc com havent'hi ja gent interessada (de la categoria que dius) no s'ha organitzat la audió. També extranyo no parlis d'edició: suposo estás decidit en editar a Paris.

Aixís acaba aquesta carta.

L'amic Manuel

Tú i els altres diguéu lo que volguéu - em sab molt greu no conèixer a Ravel molt greu - Vols dir que tornarás sense que't conegui?

Em vé a má aquesta fotografia de L'Ermita. Encara que molt deficient vui que vagi fins a Paris.

Aquell llibre

Hortense Parent

Répertoire Encyclopédique du pianiste.

Jo tinc (Tome I Tome II Librairie Hachette et C^{ie} 79 Boulevard Saint-Germain.

Com que diu (apart de Tome I Tome II Volum 1^{er} i Volum 2^{on} i parla d'autors vivents no entenc bé la classificació. Et bastará saber que en l'ordre alfabétic l'últim autor que jo tinc es Wegelius. (mort 1906) (a casa el coneixen) (E.P.D.)

1920年5月8日土曜日夜パリに

友よ、

君に手紙を書かないまま何日も過ぎてしまった。これはもし忙しい時間と考えているためだとしたら良い兆候だ。そうでない場合は怠惰の兆候ということになっただろう。

昨日以前までは、君のCには会ったことがなかった。今、彼女自身から君はそのことを聞いて知っているはずだ。そしてまた彼女はラ・ガリーガに住むことについて君に説明したに違いない。つまり、木曜日、小さい声がほくに電話をかけて来た訳だ、こう言って、「もしもし、マヌエル？」(他に誰がいる!)それはCだった。6時にほくたちは会って一緒に散歩したんだ。ベンチに座って君の手紙を読みながらね。ほくは彼女の修道院まで送って行ったよ。来週のいつか、彼女は〈僧院〉^{エルミタ}まで登って行くだろう……でも……ほくは随って行くよ。だって……分かるだろう!トレセタも一緒に行くだろう、ほくたちはすでにそうアレンジしたんだ。

二番目の手紙を受け取った。ほくのはもう少ししたら君の許に届くだろう。

君がパリにいるからには、少し用事を頼まれて

欲しい。つまり、あのコクトーの本なしで帰って来ないでくれ。あるいは、もしよければそれをほくに送ってくれ。もう一つ。メーテルリンクの「温室」、これはバルセロナで見つけることができるか分からないんだ。もう一つ最後に。もしあるなら、オルタンス・パラン [1] の本の続編を探して買って欲しい。そこには大小の裁きがピアノの巨匠と認める者全員の生涯と奇跡が語られている。ほくは製本された1巻を持っている(時折、2冊が1冊に製本されている)が、そこには初期の作曲家から近代の作曲家の思い出(セザール・フランクやショーンなど)まで載っている。この女性は現存の芸術家たち(何人かは現在は亡くなっているが)についても書こうとしていると思う。グリーグ、アルベニス、などなど。第1巻は必要ない。荷物はだから続巻が出版されていたら買って欲しいし、それももし君が金があれば、だ(持っているね、だって君はお兄さんと一緒なのだから)。これら全ては綿密に清算しよう。何としてでも!これらの用事はもちろん、君に余裕があれば、やって欲しいということだ。無理はしないように。

Cとは、ゴンサレス姉妹について話し合った。「まあ!様子見ね!今はあの人たちは向こうに行ってしまったのだから!」(Cの言葉。)また彼女はほくにG姉妹と彼女との間で君に選択の余地を与えたと言っていた。またほくたちはロシータについても話し合った。

毎日君の作品の演奏のニュースを待っている。なぜこんなに遅れるのか?すでに多くの人(君が言うカテゴリーの)が興味を持っているのに、コンサートが開かれないなんて訳が分からないよ。それに君が出版の話をしていないのも奇妙だ。パリで出版を決めたんじゃないなかったのかい。

ここでこの手紙は終わる。

君の友マヌエルより

君とか他人とか、好きなことを言うがよい。ラヴェルと知り合いにならないとだめなことは知っている。絶対に。本当に君は彼と知り合いにならずに帰って来るのかい?

この^{エルミタ}〈僧院〉の写真が届いた。まったく赤字だけれど、パリまで行きたいよ。

この本だ。

オルタンス・パラン

ピアニスト百科目録

ほくは第1巻と第2巻を持っている。アシェット書店 サン=ジェルマン通り79番地

言ったように(第1巻と第2巻の他)第1集と第2集は現存の作曲家についてのもの、編集の仕方はよく分からない。

アルファベット順でほくが持っている。最後の作曲家はヴェゲリウス [2] だと分かれば十分だろう。(1906年没。)(家では知っている)(E.P.D.)

註

[1] オルタンス・パラン Hortense Parent (1837~1929)。パリ国立音楽院でピアノを学び、ピアノ教育者として活躍。1882年、パリにピアノ教育者のための学校を設立。

[2] マルティン・ヴェゲリス Martin Wegelius (1846~1906) か? フィンランドの作曲家。シベリウスの師。

20

22 - V - 20

Amic

Rebí el teu telegrama anunciant el retorn de Paris. Demà i dilluns seré a Puig-Sacalm (plena muntanya) amb 2 companys que no coneixes (ni jo casi tampoc)

Espero que m'escrirás, des de Barcelona,
dientme si pots pujar - o si tinc de baixar.

Manuel

Si pots puja tú tot seguit. Dimars ja seré a
casa.

1920年5月22日

友よ、

君のパリからの帰還を伝える電報を受け取った。
明日と月曜には、ぼくは君の知らない二人の同僚
(ぼくもほとんど知らないが)とプッチ=サ
カルム(全く山の中だ)にいる。

バルセロナからの君の手紙を待っているよ。君
が登って来るか、ぼくが降りなければならぬ
か言ってくれ。

マヌエル

できれば、直接登って来給え。ぼくは火曜日
には家にいる。

21

22 - VI - 20

Déixat de Turopares [?] i Pirules i
Gitanes

No hi ha millor verbena que el nostre foc de
Sant Joan davant la carretera de la Admetlla

Recòrdat de lo dit: t'esperaré dema i aniré al
tren de 2/4 de 7

Manuel

Porta "Cants Mágics"
"Carmes"

"Pessebres"

Tú pórtals.

Felicita en Pepitu (ai! no qu'es San Joan!)

1920年6月22日

トゥロパラスとピルラスとジブシーは
やめ給え。

アーモンド通りの前の私たちのサン=ジョアン
の火祭り [1] 以上のお祭りはあり得ないのさ。

ぼくが言ったことを思い出してくれ。明日君を
待つ、そして6時半の汽車で行くつもりだ。

マヌエル

「魔法の歌」

「魅惑」

「クリスマス飾り」を持って来てくれ。

君、持って来てくれよ。

ペピトゥおめでとう! (あ、違う! サン=ジョ
アンだった!)

註

[1] スペイン語ではサン・ファン祭りと呼ばれる。
バプテズマのヨハネの名を冠し、夏至の日に一晩
中、たき火や花火、爆竹など火を点けて祭りをす
る。

22

1^{er} d'agost - 1920

Amic

Vaig buscarte a l'estació. Al vespre rebí la
teva carta.

Avui t'he esperat de nou, però ja sé com ets

Em convé repós: Arenys no era repós. No fa enamorat tenir vuit dies per reposar i no anar a passarlos amb l'estimada, però, Arenys no té vuit dies per reposar

He tingut malaltia moral que s'em tornava física -. Convenia anar a fòra (els de fòra hem d'anar encare més enfòra!) Montseny m'atrau -, mes - falta- va la decisió; tenia d'anarmen sol: vaig preguntarte i no'm podias acompanyar. Arnau ho prometia però també es d'els que promet

Al fi Nuria es repós. En Pòlit es bon company perquè tot li está bé i em deixa estar sol quan vui i em fa de company quan el necessito. Qué més vols?

Adeu i ja t'escriuré Si trovés alguna bona erba de remei la culliré per tú

Avui havias d'esser aqui.

Manuel

Mercés p'els llibres. Lo de pagarlos ho ferém: soso que el llibrer em té confiança.

1920年8月1日

友よ、

ぼくは駅に君を迎えに行ったんだぜ。その夜に君からの手紙を受け取った。

今日もまた君を待っていたんだが、もう君がどんなにか分かっているよ。

ぼくは休んだ方がいいんだ。アレニスとは休める

場所ではなかった。恋愛中の者にとって、愛する人に会わないで一週間休むなんて無理な相談だ。でもアレニスでは休むために一週間もなかったけれどね。

ぼくは心理的な病気があって、それが身体にまで影響しているんだ……。郊外にでも行ければいいんだが(町の外の人間だから、もっと遠くに行かなくちゃいけない!) モンセニーがいいとは思いますが、決心がつかない。ぼくは一人でいかなければならない、君と一緒に来てくれるか訊いたけれど、だめだったからね。アルナウは来てくれると言ったけれど、彼もまた約束だけの人間だからな。

結局、ヌーリアが休むのにはいい。ポリットはいい道連れだ。なぜって、彼は全部気に入っているし、ぼくが一人になりたい時は一人にしてくれるし、連れが欲しいときは、一緒にいてくれる。これ以上何を求めようか?

さよなら、また手紙を書くよ。もし何かよい薬草ハーブを知っていたら、ぼくのために採って来てくれたまえ。

今日は君は本当はここにいるはずだったんだからね。

マヌエル

本ありがとう。支払いはきつとするよ。本だけはぼくのことを信じてくれるようだ。

23

10 - XII - 20

Amic

T'escric donante l'enorabona per la solució definitiva d'els motius "de platja" que son els primers teus i sempre serán entre els millors

També per demanarte que, si vas a can Dalmau i preguntis quin preu tenen aquells dibuixos d'en Ricart (el de la noia que's pentina i s'arregla el cabell). Tal vegada el teu germá estaré enterat d'els preus. Encare que no'm crec capaç per comprar, m'interessa saber quan se demana d'una pintura d'en Sunyer com la que vem veurer ahir. Jo no tinc diners, però les teles es ferán cada día més costoses.

Quan se compra no sol esser pas que's tinguin diners sino que no's té defensa per resistir la temptació. Jo la sento ara, no m'en sé lliurar.

Tot aixó m'ho podrás contestar (en la proporció que sápigas) el dilluns matí quan vindré a despertarte.

Saludarás al teu germá explicantli lo enamorat queestic d'el vidre amb flors de la meva col-lecció.

Manuel

Probablement feré fira amb Bonjoch

1920年12月10日

友よ、

この手紙は君におめでとうを言うために書いている。「浜辺」モチーフの最終決着についてだよ。このモチーフは君の最初のものの一つだし、常に最上のものの一つであり続けるだろう。

また君に頼みがある。もしダルマウの店に行ったら、リカルト [1] の絵がいくらぐらいするのか訊いて欲しいんだ（少女が髪を梳って整えている絵だ）。恐らく君の兄さんが値段を知っ

ているかも知れない。それを買うことはできないけれど、昨日ほくたちが見たようなスニエール [2] の絵などがいくらぐらいするのか知りたいのさ。ほくはお金は持っていないけれど、絵画は毎日、値段が上がって行くだろう。

買い物をする時は決まってお金を持っているからじゃなくて、誘惑に負けてしまったからなんだ。ほくはそう感じた時はもうそれから離れられないんだ。

これら全て、月曜にほくが君を朝起こしに行く時に答えてくれたまえよ（知ってる限りでいいから）。

お兄さんによろしく。彼にほくがどれほど、自分のコレクションの中の花を含んだガラスを愛しているかを説明してくれ。

マヌエル

多分、ボンジョックとパーティーをするだろう。

註

[1] アンリック・クリストーフォル・リカルト Enric Cristòfor Ricart i Nin (1893~1960)。カタルーニャの画家・版画家。ノウセンティスモの推進者の一人。

[2] ジョアキン・スニエール Joaquim Sunyer i de Miró (1874~1956)。カタルーニャの画家。ノウセンティスモに属するが、パリに若い頃から出て、新印象主義など様々な影響を受けている。

24

2 - V - 21 a Paris

Amic Frederic

Rebí la segona carta teva després de la primera. Ara es una hora feta expressa per escriurer ja que al matí m'he purgat, al mitg día he menjat l'ala de la gallina i en tot el día

no'm moc de la nova Ermita (Cardedeu n° 6 – [?]); ha fet trons i llamps i ara fa sol de ponent de manera qu'es hora de escriuret. Avans ens hem preocupat de que l'Ermita fes una mica d'olor : ahir vem portar espigol de Bertí i de Puig-graciós i avui hem fet una especie de "baos" ó "bafos" musicals a base de Bach i Pergolesse [GRÁFICO]

Barreja aixó (en subtil mescla) amb roses de La Garriga i amb delicades coloracions de sol minvant. Pósam a mi en una sumptuosa taula de noguera encerada, sota l'ample escudiller carregat de pisa anticuada, devant a l'angle de la celda blau-terrestre-marítim i aquest soc jo i aquesta es L'Ermita nova. Quefers domèstics retenen Helena en aquest moment, però lo demás d'el dia l'hem invertit en assaigs musicals. Ahir un dia de muntanyes i llamps I trons. Un dinar de senyor-rector una mica massa pródig en grasses de porc va provocar la enèrgica protesta d'el meu estómag, gracies a la quina puc jo assaborir aquesta groga tarda d'el dos de mayo, si bé fent aquella, també groga, cara de l'home qui s'ha purgat, al menys sense sentir cap Barbero de Sevilla ni cap altre soroll perforat d'aquells amb que l'alius [?] m'ajuda a guanyar les garrofes. Aixis, doncs, si ara tu vinguessis a casa em trobaries per l'estil de lo que solc trovarte jo quan vaig a la teva: un pijama per l'estil i una malaltia semblant, amb la sola diferencia de que (passiobé Janet) jo vaig afeitat d'avui mateix, i a la dòna ara li han rentat el cap. El barber ens vé a casa. A dinar em fan lo que vui. En compensació d'aquestes ventatges tinc de pensar en el sereno i l'escombriaire procurant quedar bé per no ser el dosdoro [?] d'el ~~meu~~ nom de casa meva.

Tornant de les meves divagacions i arriant a l'objecte important, dec felicitarte si es veritat tot lo que dius. Cás de no esser veritat demanaré, en concepte d'indemnització, una cantitat prudencial quina xifra em reservo en aquest moment deixant el ferla pública per mes endavant. (Hem menjat fideus)

De Paris em portarás lo que voldrás. Si fás com l'altre vegada no'm portarás rès. Si'm portas quelcom serán llibres que puguin interessarme o bé la música més senzilla que trobis.

Estruncat en sec el manantial i eixuta la font de les meves paraules poso ff interi a la present desitjante salut i prosperitat amb o sense les susdites suecas

Espressions a la torre infiel

Manuel

1921年5月2日パリに

我が友フラダリック

最初の手紙の後、2番目を受け取った。今は手紙を書くためにわざわざ作った時間だ。朝は掃除をし、昼食には鳥の手羽を食べ、つまり一日中新しい〈僧院〉
(カルデデウ通り6の[?]番地)から動かなかったというわけだ。雷が鳴って稲光も見え、今まさに日が沈む時ちょうど君に手紙を書く時間だ。以前ぼくたちは〈僧院〉が良い匂いがするよう気を付けたね。昨日ぼくたちはベルティとプッチグラシオスのラヴェンダーを持って行った。今日はバッハとベルゴレージを基本とした一種の音楽「アロマ」をしたよ。[図]

これをラ・ガリーガの薔薇と夕陽の微妙な色彩

と混ぜ合わせる（デリケートな混合だ）。ぼくに艶出しされた胡桃材の豪華な机をくれたまえ、古風な板の幅広い棚の下にそれがあって、それらは空陸海の独房の前に片隅に置かれている。そこにぼくはいるし、これが新しい〈僧院〉なんだ。家の用事でエレナは今の所家に残っているが、日中の残りの時間はぼくたちは音楽の試奏に使っている。昨日は山と稲妻と雷の1日だった。学長先生の余りに豚の脂に満ちた食事はぼくの胃袋の抗議のエネルギーを引き起こしたよ。この料理のおかげで、この「5月2日」の黄色い夕方を味わうことができる。とてもよく出来ていて、同じように黄色いんだが、下剤を飲んだ男の顔色で、少なくともセビリヤの理髪師とか他の穴を開けられた騒音を聴くこともなく、アリウスがぼくの生計を援けてくれている、あの穴の音楽なんだけどね。というわけで、もし今君が家に来たら、ぼくが君の家に行った時によく出会う君の姿のようなぼくを見出すだろう。つまり同じようなバジャマで明らかに病気でね。ただ一つの違いは（後にはジャネットも）ぼくはまさに今日ひげを剃っているし、ぼくの奥さんは髪を洗ったばかりってことだ。理髪師が家に来たってわけ。食事にはぼくの好きなものを作ってくれる。その代わりにその利点に対して、ぼくはぼくの家の名前の「ドストロ？」にならないようによく夜気とゴミ収集について考えないといけないんだ。

閑話休題、大切なことに戻ろう。君が言ったこと全てが本当だとしたら、ぼくは君におめでとうを言わなければならない。それが本当でない場合、賠償金として、今現在ぼくが考えている金額、適当な額を、後にそれを公にするのはやめにして、要求するだろう。（ぼくたちはフィデウアを食べたね。）

パリからは君の好きなものを持って来てくれ。もし前回のようなだったら、何もいらぬ。もし何か持ってくるなら、ぼくの興味を引くような本か君が見付けられるうち最も単純な音楽がい

いな。

突然泉が中断し、ぼくの言葉の泉水が枯れてしまったので、この手紙を暫定的に終わる、君の健康と発展を、上述のことがあるなしに関わらず、祈る。

不忠実な塔への表現だ。

マヌエル

25

18 - V - 21 a Paris

Amic Frederic

No sé si ets encare a Paris pero t'hi escric. Deus haver extranyat que no t'hagi fet comentaris sobre l'article d'en Vuillermoz. Vaig llegir-lo i no hi he tornat i en aquell moment t'hauria escrit i m'hauria posat a escriure ~~una carta~~ un article dient lo que aquell deixa per dir i parlant d'el músic a més de la música.

De totes maneres diu molt i vaig estar amb tota satisfacció ja que tot es ben dit. Soposo que d'ensá d'aquell dia deus haverte engreixat. Jo també m'he engreixat, degut al meu matrimoni.

Aquí á Catalunya aném badant com sempre. Mentres un critic de veritat i extranger no sab com fersho per desferse en elogis la nostra "Vanguardia" et fa el petit honor de concedirte quatre ratlles perdudes entre columnes de text i el "Diagrafic" queda satisfet d'haver complert anunciant qu'un critic francès s'ha ocupat de tú.

Sento haverho de dir, però has fet bé. Vas fer

bé de donar a la gent de Barcelona “l'aristó” perque s'anessin entretenant i mentres tant anar'én a Paris a fer entrega d'els “Cants mágics”. Aquí la gent d'els concerts parlen massa durant l'audició i no sentirien les “Festes llunyanes” perque hi han poques notes. Y en quant als crítics, també amb tant poques notes no'n tenen ni per una mossegada resultant per ells impossible confeccionar un estudi critic per falta d'elements. Has de creixer: has d'estudiar: no't desanimis que ni ha materia prima i si segueixes trevallant compondrás una novena sinfonia que't donará a Barcelona un exit definitiu d'el qual es anuncie el petit exit qu'ara has tingut a Paris. Bethoven i Amadeu Vives t'acompanyin. L'Ermita nova t'envia una salutació.

Mentrestant protesto enérgicament de que en Vuillermoz t'anomeni “espanyol” Aixó m'enfita molt.

En canvi mereix la aprovació d'una petita inclinació de cap, aquella “petita tercera melancólica que s'evapora”. “que ningú l'havia sentit mai”.

Altre aplaudiment ont diu: L'analisi més atent de la seva obra no revela el seu secret”. La teva música es en realitat com les ametlles d'Arenys els borregos de Cardedeu: tothom sab com son fets però ningú pot ferlos sino Cardedeu i Arenys.

Altre al dir que els motius son trets d'el natural i portats a l'órgan auditiu sense “afegiments de literatura”. Va bé per ara.

Altre al dir que la teva música no es “composició” sino simplement i purament

“música”.

Altre encare ont diu: “Aquesta tecnica resultaria infantil a un lector ignorant”. Per aixó aquí, davant els Millets i Grignons de Lamotes ets infantil i encare has de menjar molts plats d'escudella sinfónica.

Acertat lo que diu, que mai s'havia tant bé despullat i “afranquit” la música d'ornament per reduirla a lo essencial.

Deixant Vuillermoz, et recomano (i no'm donguis un disgust) que no tornis de Paris amb xelina [?] i sombrero negre sino amb sabata rossa i barret vert. Si compres pipa que sigui ella per mi i de la marca GBD [DIBUJO]

T'escriu amb acompanyament de llamps i trons des de l'Ermita nova mirant la muntanya radera el fum de la pluja. Penso que t'agradara el petit “coin” de treball al “vilatge” vora la muntanya. T'adverteixo que de l'article susdit n'hi ha més d'escrit teu que d'en Vuillermoz. A mi no me la pegas!

Avui no estic gaire d'humor com endevinarás p'els finals tristos de la nova carta, però els dies que estic d'humor no estic per cartas.

T'escriu doncs per compromís.

De N. afpu [?]. s. s. i. a. q. b. s. m.

Srs [?]. Don Manuel Blancafort

Espressions.

El que té a dirme ets tu. Apa home!

1921年5月18日パリに

我が友フラダリック、

まだ君がパリにいるか分からないけれども、そこに書くことにする。君がヴェイエルモーズの記事について何も言わないのはとても奇妙なことだ。ぼくはそれを読んだ、そして読み返してはいないけれど、その時君に手紙を書いて、一つ記事を書き始めようかと思った。それは音楽家やその上その音楽について語りながら、彼が語るのをやめてしまった全てのことを君に伝えるような記事なんだ。

いずにれせよ、彼は多くを語ったし、全てがうまく語られていることに満足した。あの日以来、君はきっと太ったことだろう。ぼくも結婚生活のおかげで太ってしまった。

ここカタルーニャではいつも通り皆ほおっとしている。外国の真の批評家が真の「君を」評価しようといろいろと尽力している間、我々の『ラ・バングアルディア』紙は君に雑文コラムと「写真集」の間に埋もれた四行記事という小さな名誉を与えるだけなんだからな。それもフランスの批評家が君を取り上げたことを伝えるだけで事足れるとしているような情けないものだ。

これだけは言っておきたかったんだ、でも君はうまくやっている。バルセロナの「上流」人士たちに対して、うまく彼らを楽しませながら、その間に君自身はパリに行って「魔法の歌」を作って渡すなんて、うまいじゃないか。ここではコンサート会場で人は演奏の最中におしゃべりし過ぎて「遠くの祭り」なんて誰も聴きやしない、なぜならほとんど音がないからね。そして批評家たちときたら、またこんなにも音が少ないんで、書く材料がないことから批評研究を作り上げることができなくて、何の結果ももたらすことができないんだ。君はどんどん成長すべきだし、勉強すべきだ。がっかりしないでいい、材料はある。君が働き続ければ、新しい交

響曲を作曲して、バルセロナで決定的成功を収めるだろう。パリでの今の君の小さな成功はその前兆なのだ。ベートーヴェンとアマデウ・ベベス [1] が君に随っていますように。新〈僧院〉が君に挨拶を送る。

その間ぼくは、ヴェイエルモーズが君を「スペイン的」としたことについて強力で抗議活動を行うのだ。本当にうんざりするよ。

それに対してわずかな領きによる評価に値するのは、「立ち昇る小さな三度のメランコリー」とか、「これまで誰も聴いたことのないような」という表現だ。

もう一つ喝采すべきは次の箇所だ。「彼の作品を詳しく分析したとしてもその秘密は明らかにはない」。君の音楽は本当にアレニスのアーモンド、カルデデウの白波のようなものだ。誰でもがどのように出来ているか分かっているが、誰もカルデデウやアレニスのようにはそれを作ることはできない。

もう一つ、モチーフが自然から取り出され、聴覚器官まで「文学を交えることなく」届けられると言う所。ここの所はよろしい。

もう一つ、君の音楽は「作られた作曲」ではなくて、単純に純粋に「音楽」である、と言う所。

さらにもう一つ、以下の箇所。「この技は無知蒙昧の輩には子どもっぽく見えるだろう」。これだからこそ、ミリエ [2] とかグリニョン・ドラモット [3] たちの前では君は子どもっぽいいし、まだまだ交響的スूपをたくさん食べなければならぬんだ。

次の表現も正鵠を射ているね。今までこれほど音楽から虚飾を剥ぎ取り、自由にして、その本質のみに徹底したものはなかった、と。

ヴェイエルモーズはさておき、君にお勧めなのは(そしてぼくを嫌がらせないでくれたまえよ)パリから帰る時に、セリナと黒い帽子をやめて、赤い靴と緑の帽子を身に付けることだ。もしぼくにパイプを買ってくれるなら、GBD プレンドのものにしてくれたまえ。[図]

この手紙は、稲妻と雷鳴と共に書いている、ここ新〈僧院〉からは雨雲の向こうに山が見えている。君は、山際の「村」の中の小さな「仕事場」を好むだろうと思ったんだ。君に忠告しておくが、上述の記事にはヴェイエルモーズのよりもたくさんの君の書いたものがある。ぼくを騙すことはできないよ！

今日はこの新しい手紙の悲しい結末を見れば分かるように、ぼくは機嫌が悪い。でも、機嫌がいい日には、手紙を書く暇がないのさ。

つまりこの手紙は君への約束だから書いた。

N より、afpu.s.s.i.a.q.b.s.m. [?]

Sres.[?] ドン・マヌエル・ブランカフォルト

敬具

君が誰かぼくに何か言ってくれる人。がんばれ！

註

[1] アマデウ・ビベス Amadeu Vives i Roig (1871~1932)。カタルーニャの作曲家・作家。数多くの歌曲、オペラ、オペレッタ、サルスエラを作曲。またエッセー、自伝、戯曲なども発表した。

[2] リュイス・ミリェ Lluís Millet i Pagès (1867~1941)。カタルーニャの作曲家・指揮者。リセウ音楽院でフェリペ・ペドレイ(ペドレル)などに師事。1891年にアマデウ・ビベスと共に合唱団オルフェオ・カタラを創設し、指揮者となった。その後も、バルセロナ市立音楽院院長を務めたり、『カタルーニャ音楽雑誌』を創刊するなど、カタルーニャ音楽界の中心として働いた。

[3] ジョアン・ラモット・ド・グリニオン Joan

Lamote de Grignon i Bocquet (1872~1949)。カタルーニャのピアニスト・指揮者・作曲家。フランス系。リセウ音楽院で学んだ。1911年バルセロナ交響楽団を創設、指揮者となる。1917年には母校の院長に任命された。1943年にはバレンシア市立管弦楽団も創設。

26

27 - V - 21 a Paris

Amic Frederic

Vaig enviarte una segona carta i sense carn d'olla. La meva carn estava de mal humor en totes les províncies d'el meu còs i tota la meva persona feta una olla.

Retornant a Vuillermoz, es estupèndit. Però avui escullo el parlar de La Garrigueta d'els tarongers ("Planella"), centre d'el món.

Cada tarda caminem amb Helena per aquells camins d'amistat i de divorci, amples i estrets, que'ns deixen estar junts i conversar o ens obliguen a anar l'un radera l'altre com se fá a la professió. Jo segueixo essent pintor, resumint en una sola persona lo que en altres casos necessita de dos individus (p.e.: germans Mompou, germans Laporta Astort, germans Sainz de la Maza, etc - etc - pintors i músics respectivament) Jo soc, o vinc a esser, el "germans Blancafort".

Sapigut aixó no t'extranyarás de que, conduintnos aquells camins d'amistat i de divorci a llocs ont el paisatge pessigolleja la meva sensibilitat en els seus dos caires de color i contorn, tregui jo de la butxaca previnguda el meu àlbum i descrigui complicades ratlles amb súbtills perspectives, mentres Helena llegeix "Drames rurals" de Víctor Catalá i grata l'esquena al petit

“Izart”, digne successor de “Sly [?]”. Y amb no menys facilitat, ja finit el paisatge i reclós entre els cortinatges nous de L’Ermita nova, pessigollejo les tecles -blanques i negres mellors i més escollides quines vibracions s’ajunten omplint l’espai i cristal·lizant en els més exquisits acorts. Ja dites aquestes primeres coses i traçades les primeres pincellades que son el fondo d’aquesta carta-retaule, passaré sense més preludiar ni entretenirme

1921年5月27日パリへ
わが友、フラダリック、

君に2番目の手紙を送った、鍋の肉なしにだ。ほくの肉は、身体のどの地方のも、そして鍋となるほくの人格全てが不機嫌だったのさ。

ヴェイエルモーズに戻ると、あれは実に素晴らしい。しかし今日は、ラ・ガリゲータについて、オレンジ色のもの（「プラネリヤ」）について語ることを選ぶ、世界の中心のことだ。

毎日夕方に、ほくたちはエレナと共に、あの友情と離別の小道を散歩するのだ。その道は広かったり、狭かったり、ほくたちと一緒に話をさせたり、ほくたちが後になり先になり、聖体行列のように一列に歩くようにする。ほくは画家で

あり続けるのだが、それも他の場合には二人の人物が必要なものを一人の人格にまとめているんだ（例えば、モンポウ兄弟、ラポルタ・アストルト兄弟 [1]、サインス・デ・ラ・マサ兄弟 [2] などなどのように、それぞれが画家で音楽家）。ほくは「ブランカフォルト兄弟」である、あるいはそうなるんだ。

ほくがこう言ったからといって、不思議がらないでくれ。ほくたちは友情と離別の小道をそぞろ歩き、そこでは、色彩と輪郭の二つの性格に

おいて風景が、ほくの感受性を擦んだ。ほくは用意して来たポケットからアルバムを引っ張り出し、複雑な線を遠近法のスタイルで描き、その間にエレナは、ビクトール・カタラー [3] の「田舎芝居」を読みながら、「スリ」の後継者に相応しい小さな「イサルト」で背 [肉?] を引っ掻くのだ。そして、少なからぬ容易さをもって、すでに風景は終わり、新〈僧院〉の新しいカーテンの間に閉じ込められ、鍵盤を — 白と黒の — うずうずさせるのだ。それらは前よりも上等で、うまく選ばれており、その響きは空間を満たしながら、そして最高に甘美な和音に結晶しながら、結合して行くのだ。すでにこれら最初のことどもが語られ、最初の筆致が描かれ、この手紙祭壇画の奥にそれらがあるのだから、これ以上の前奏もなく、ぐずぐずすることもなく、次に行くことにしよう。

註

- [1] カタルーニャの画家、ラモン・ラポルタ・アストルト Ramon Laporta Astort (1888~1936) とその兄の作曲家・ピアニスト、アントニオ Antonio (1885~1957) のこと。兄弟共に、ブリュッセルで学び、弟の方は後にパリで勉学を続ける。
- [2] レヒーノ・サインス・デ・ラ・マサ Regino Sáinz de la Maza y Ruiz (1896~1981) と弟のエドゥアルド Eduard (1903~1982) のこと。二人とも、ブルゴス生まれの作曲家・ギタリスト。
- [3] ビクトール・カタラーは、本名カテリーナ・アルベルト Caterina Albert i Paradís (1869~1966)。カタルーニャの「ムデルニスマ (モダニズム)」の作家。1905年の『孤独 Solitud』が代表作。

27

29 - V - 21

a Paris

Amic (altra vegada)

Una irremisible interrupció -de 48 hores de llargada- va privarte, o mellor dit lliurarte,

d'un gran raig de paraules qu'hauria omplert una carta de la capacitat d'una portadora fins a vessar copiosament. Em sentia narrador i glosador. Avui el perill es passat i t'escric ja amb molta menys facilitat, lo que equival a dir que el cedás s'ha ajustat, una mica i les paraules son més triades.

Triant, doncs, també la mellor de les mellors de les coses qu'ara penso, et dic que'm fa falta la visita en que tú prenguis possessió de L'Ermita nova. Em fan falta acorts, tierces mineures que s'avaporin i converses. Passeijos diurns, vespertins i nocturns i rotllos de pianola tocats al revés

Barrejar una mica de Càrmen amb una mica de F [?]. Una mica de lo teu amb lo meu. Vui dir parlar tú i jo de nosaltres i d'els altres. Pobre Càrmen !

Jo soc encare en un periode de la vida en que un se troba una mica inconscient. Em passa a mi com li passa al paladar que tasta un plat: donam un minut de temps i després et definiré tots els gustos i semigustos que hi trobo. Ara soc encare dintre aquell minut d'espera.

No obstant puc avençar ja alguna primera impressió que, posada en forma gráfica resultaria la continuació de la linia recta d'els meus desitjos antecessors. Y puc dir ho més clar: sento que en rés m'he equivocat i que tot va resultant tal com me pensaba, lo qual vol dir que la vida es d'el color que jo la volia ja que expressament l'he escollit com la preveia.

1921年5月29日
パリへ
友よ（ふたたび）

許し難い中断 — 48時間もの長さの —
が、ぼくから奪った、いやむしろぼくを解放してくれた、言葉の一大噴出から。さもなければ、それは一通の手紙の運搬量の限界を超えて、大量に零れ落ちる所まで行ってしまったに違いない。ぼくは自分を語り手と同時に注釈者としても感じていたんだ。今日、危険は去った。そして、この手紙もかなりな困難を伴って書いている。つまりは、ニュアンスが少しは調整され、言葉がより選ばれたものになっているということさ。

さて、こうして最上のもの中でも最上のもを選んできると、今やぼくが思うに、言っておきたいことは、君が新〈僧院〉の所有者となったということを示す訪問が必要である、ということだ。和音が足りないし、立ち昇る短三度が足りないし、会話が足りないんだ。日中・夕方・夜の散歩、それに表裏演奏されるピアノ・ロールが。

少々のカルメンと少々のFを混ぜ合わせること。少々の君のとぼくのとを混ぜ合わせること。言いたいことは、君とぼくが、ぼくたちのことや色んな人々のことを話すということ。可哀想なカルメン！

ぼくはまだ、少々無意識的に在るような、人生の一時期を生きている。ぼくは、まるである料理が口の中を通るかのように、人生を送っている。ぼくに1分間の時間をくれ、そうすれば、ぼくが会おう全ての味わいと半味わいとを言い当てて見せよう。今はまだぼくは、こんな待機状態の中にいるんだ。

とはいえ、ぼくはいくつかの最初の印象を前進させることができる。それを図像の形式にすると、ぼくの以前の望みから一直線に伸びて来る延長ということになるだろう。それをもっとはっきり言えばこうだ。ぼくは何も間違っていないと思うし、全てがぼくが考えていた通りに

なっていると思うから、その意味する所は、人生とはぼくがそう望んでいた通りの色で出来ており、そう予想していた通りにぼくが意図的に選んだ色で、出来ているものだ、と。

28

22 - VI - 21

Amic

He rebut la teva carta enigmàtica; però jo ja soc llegidor avesat als teus enigmes. Al comensarla ja he sentit una petita percussió qu'és la má coneguda de l'amic que truca a la porta. Feia molt temps! Avui ha pogut de nou oferirte un servei la meva amiatat, i aixis ho fá llegint la teva carta i comprenentla

Presentíia la teva arriuada i pensava "Pobre C. !.."

Avui no es día d'escriuret llarg. Jo corresponc a lo que'm contas de tú contante de mi dugues paraules: soc feliç. Però no tinguis por- no t'alarmis: et dic que soc feliç però no't dic que dormi a la palla d'una felicitat de palla. Avants, doncs, de dirte que soc feliç tinc de dirte que soc jo; que segueixo essent jo i H. segueix essent H Som amics

Prou (per carta) de mi i de nosaltres.

Ara tinc un gran desitg de veuret a L'Ermita nova i de fer els passetjos reglamentaris i de sentir músiques catalanes que com els cuadros d'en Sunyer ens han de venir aprobades i rubricades p'el tribunal francès.

Me-cagum la "Lliga de les nacions"!

Digam si vens dissabte a 2/4 de 7

l'amic Manuel

1921年6月22日

友よ、

君の謎めいた手紙を受け取った。しかし、ぼくはもう君の謎に慣れた読解者だ。それを読み始めた時すでに旧知の友人の手がドアを叩くときのその小さな反響の音を感じ取ったよ。ずいぶん久しぶりだ！今日、ふたたび君にぼくの友情が役に立ったと思った。そしてこうしてぼくは君の手紙を読んで理解したんだ。

ぼくは君の到着を予感し、思った。「可哀想なC！」……

今日は君に長く手紙は書けない。君がぼくの2語「幸せだ」について自分を説明しながらぼくに説明してくれた手紙に返事を書こう。しかし、怖がることはないし、身構えることもない。ぼくは君に「幸せだ」と言うけれども、藁の幸せの藁の中に眠っているとは言っていない。さて、君に「幸せだ」と言う前には、ぼくがどのようだと君に言う必要があった。ぼくがどうあってエレナも [どうあり]、Hもどうかとね。ぼくたちは友達なんだ。

ぼくのこと、ぼくたちのことは、もうたくさんだ (手紙でね)。

今は、新〈僧院〉で君にとっても会いたい。そして、いつもの散歩をして、カタルーニャ音楽を聴いて、スニエールの絵画のように、フランスの裁判所で私たちが承認し追認しに来てくれるような音楽だ。

「国際連盟」くそくらえ！

土曜の6時半に来るかい？

君の友マヌエル